論文・レポートの書き方

上野俊彦

1. テーマの選定

書きたいテーマではなく、書けるテーマを選ぶ

任意のテーマでレポート・論文などを書く場合、書きたいテーマを選んでよいが、定められた期限までに書かなければならないので、どんなテーマでもよいわけではなく、その期限内で書き終えることのできるテーマを選ばなければならない。書けるかどうかは、レポート・論文を書くための材料、つまり選んだテーマについての本（先行研究）や資料がある程度、入手できるかどうかで見極めることができる。10～20 本程度の先行研究と、アクセスできる資料などが数点あれば、卒論・ゼミ論としてある程度のことが書ける。選んだテーマに関係する本や資料があまり入手できない場合には、書きあげるのは困難である。その場合には、テーマを修正または変更しなければならない。

2. 書き方の手順

目次（構成）→文献リストの作成→文献・資料を読む→中間報告・添削→完成

書き方の手順は以下のとおり。

(1) テーマを決める。
(2) 目次（構成）を決める。
(3) 参考文献（先行研究）・資料リストを作成する。作成したリストを指導教員に提出しチェックを受ける。
(4) 参考文献を読む。
(5) レポート・論文を書き始める（もちろん、書きながら、文献も読む）。この間に、テーマや目次（構成）の修正、変更をする場合もある。
(6) 中間報告。実際に書いてみたレポート・論文の文章を e-mail でやりとりしたり、直接、面談したりしながら、添削や指導を受ける。
(7) 仕上げ。
(8) 提出。

3. 書き方のノウハウ

考えるよりまず作業に取りかかる。とにかく書いてみる。

「論文の書き方」に類する本を読むことは参考になるかも知れないが、それを読めば書けるわけではない。むしろ、文章作法についての文献が参考になる[1]。考えているだけでは前進しない。書き方の手順に従って実際の作業をしながら、あるいは実際に書いていくことで、新しいアイデアが浮かんでくる。まず、具体的な作業にとりかかり、書きだしてみることが大切である。

【具体的作業手順】

文献の一部だけをコピーした場合には、タイトルがわからなくなるので、著

[1] 木下是雄『理科系の作文技術』中公新書；本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫などがお勧め

者、文献名（雑誌論文の場合は論文名と雑誌名）、出版社（単行本の場合）、出版年（雑誌の場合は月日･巻号など）を必ずコピーの余白にメモしておく。

文献を読んでいるとき、重要と思われる箇所、論文・レポートで使えそうな箇所があったら、すぐにその場で、マーカーで印をつけたり、付箋をつけたり、抜粋ノート（レジメ）を作成したりする。抜粋ノートは、日本語文献の場合は、そのまま抜粋せず、概要などをメモする程度でもよい。ただし、どの本（論文）の何ページかを必ずメモしておく。

抜粋ノートのページ数がある程度たまれば、論文が書ける。

すべて読み終わってから書き始めるのではなく、ある程度読んだところで、論文を書き始める。そして、書きながら、また読むようにすると、要領よく読めるし、速く作業が進む。

4. レポート・論文の形式

タイトル、氏名（学生番号）、ページ番号、注、参考文献をつける。

(1) 用紙サイズ

A4 縦置きとし印字は横書きが標準。

(2) 余白

A4 では上 35 ミリ、下左右 30 ミリが標準（ワードの初期設定）。

(3) 字数

A4 では 1 ページあたり 40 字×30 行＝1200 字または 40 字×40 行＝1600 字（この資料の文字数と行数）が標準。

(4) フォント

漢字かなは、見出し等は MS ゴシックなど、本文は MS 明朝など、英数は Times New Roman などが標準。

MS ゴシック　MS 明朝　Times New Roman

(5) フォントサイズ

10.5 ポイントが標準。

(6) ページ番号

ページの下部・中央に、1、2、と数字を入れるのが標準。表紙にはページ番号は打たないのが一般的。表紙の次からページ番号が入る。

(7) 表紙

タイトル、氏名、学生番号を書く。

(8) 本文

標準的な章番号の付け方は以下のとおり（５までとは限らない）。

１．はじめに（序論、まえがき、問題の所在）

「はじめに」で、テーマを選んだ理由、選んだときの問題意識、あるいは問題提起、疑問点の提示がなされる。また、長い論文などの場合には全体の構成が説明される。

２．章タイトル

（１）節タイトル
　①小見出し
・・・・・・
５．おわりに（結論、あとがき、結び）
　結論が書かれるが、本文中にすでに書かれていれば、なくてもよいし、感想めいたことを書いてもよい。「はじめに」で問題提起あるいは疑問点の提示がなされた場合には、「おわりに」か、または本論で回答が提示されなければならない。また、そのレポート・論文で書ききれなかったこと、今後の課題や展望を書いてもよい。

(9) 注

①脚注（ページの下）または文章末脚注（レポート・論文の最後にまとめる）とする。以下は社会科学系論文の典型的な脚注形式である。

1 *Правда*, 20 апреля 1985г., с. 2.
2 Ельцын Б., *Исповедь на заданную тему*. М., «Новый стиль», 1990, с. 11（邦訳，ボリス・エリツィン，小笠原豊樹訳『告白』草思社，1990 年，22 頁）.
3 ジョン・モリソン，秋野豊監訳，赤井照久訳『ボリス・エリツィン』ダイヤモンド社，1992 年，46 頁。
4 Ельцын, указ., с. 12（前掲邦訳，23–24 頁）.
5 Там же, с. 13–15（前掲邦訳，26–31 頁）.
6 ミハイル・ゴルバチョフ，工藤精一郎・鈴木康雄訳『ゴルバチョフ回想録』上巻，1996 年，446 頁。
7 Diamond, Larry, Linz, Juan, and Lipset, Seymour Martin (eds.), *Politics in Developing Countries: comparing experiences with democracy.* Lynne Rienner, 1988, p. 98.
8 Dahl, Robert, *Poliarchy: Participation and opposition*. Yale University Press,1971, pp. 56-57.
9 Ibid., p. 88.
10 Diamond et al (eds.), op. cit., pp. 98-99.
11 *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 6, 5 февраля 2001г., Ст. 551.
12 http://www.mms.ru/archive/chronicle/2000/05/17.html

②人文科学系論文では以前から（木村, 2002: 18）、また社会科学系論文でも最近はこのように、本文の文章中にかっこ書きで注を入れて（上野, 2001: 98）、文章末の参考文献表を参照させる形式が用いられている（小森田, 2003: 56-57）。このカッコの中は、著者名、文献出版（発行）年、参照ページの順となっている。同一著者が同一年に複数の著作を書いている場合には（下斗米, 1997①: 56）のように、区別できるように番号を打つ（下斗米, 1997②: 128）。

(10) 参考文献表

　レポート・論文の最後につける。邦文文献は著者の五十音順、欧文文献はアルファベット順とする。以下は典型的な形式である。なお、出版年が著者名の

次にあるのは、(9)②の形式の注に対応させるためだが、それ以外の場合には、出版社名のあとに、出版年があるのが標準的である。

1. 上野俊彦．2001.『ポスト共産主義ロシアの政治－エリツィンからプーチンへ－』日本国際問題研究所.
2. 川端香男里・佐藤経明・中村喜和・和田春樹・塩川伸明・栖原学・沼野充義監修．2004.『［新版］ロシアを知る事典』平凡社.
3. 木村明生．2002.『ロシア同時代史：権力のドラマーエリツィンからプーチンへ－』朝日新聞社
4. 小森田秋夫編．2003.『現代ロシア法』東京大学出版会.
5. 下斗米伸夫．1997①.『ロシア現代政治』東京大学出版会.
6. 下斗米伸夫．1997②.『21 世紀の世界政治 4／ロシア世界』筑摩書房.
7. Barany, Zoltan and Robert G. Moser (eds.). 2001. *Russian Politics: Challenges of Democratization*. Cambridge, New York, Oakleigh, Madrid, and Cape Town: Cambridge University Press.
8. Brown, Archie (ed.). 2001. *Contemporary Russian Politics: A Reader*. Oxford and New York: Oxford University Press.
9. Brown, Archie and Lilia Shevtsova (eds.). 2001. *Gorbachev, Yeltsin, and Putin: Political Readership in Russia's Transition*. Washington, D.C.: Carnegie Endowment for International Peace.
10. Colton, Timothy J. 2000. *Transitional Citizens: Voters and What Influences them in the New Russia*. Cambridge and London, Harvard University Press.
11. Lane, David and Cameron Ross. 1999. *The Transition from Communism to Capitalism: Ruling Elites from Gorbachev to Yeltsin*. Macmillan（溝端佐登史・酒井正三郎・藤原克美・林裕明・小西豊訳．2001.『ロシアのエリート』窓社）.
12. Беляева Людмила. 2001. *Социальная стратификация и средний класс в России*. Москва: «Akademia».
13. Гельман В., С. Рыженков, М. Бри (ред.). 2000. *Россия регионов: Трансформация политических режимов*. Москва: Издательство «Весь Мир».
14. Гельман В., Г. Голосов., Е. Мелешкина (ред.). 2002. *Второй электоральный цикл в России (1999-2000гг.)*. Москва: Издательство «Весь Мир».
15. Голенкова З. Т. (ред.). 1999. *Социальное расслоение и социальная мобильность*. Москва: «Наука».

5. 提出方法

卒論は、指定の方法に従うが、ゼミ論は、プリントアウトした現物を提出するか、e-mail の添付文書で送信する方法が一般的。e-mail の場合には、件名（subject ともいう）に提出者名を入れる。